

平成29年8月3日

第2回いじめ防止対策委員会議事録

中坂補佐

本協議会は議事録を作成しますので録音をいたします。なお、個人情報に関わる部分につきましては非公開となります。また公開できないところは非公開にいたしますので遠慮なく発言いただけましたらと思います。
では、初めに伊藤純一教育長よりご挨拶申し上げます。

伊藤教育長

改めましてこんにちは。今日は六実の皆様方、お忙しい中、長い時間お集まりいただき、またこれからいろいろお話しいただきます。わたくしの方ですが、先々週オーストラリアに行きました。今週は韓国の大邱市からスポーツ交流で、生徒も入れて三十数名の人達が来て、今日戻りました。その中で夕べも遅くまで韓国の校長先生が2人いらっしやっついていまして、最後の方でいじめのことになりまして、「まあ、ありますね。」と向こうの方にも暗い顔をされて、「いじめの問題が重要な課題になっています。」とおっしゃっていました。

人と人は複数になれば、必ず力の違いがあり、上下の関係も同じですが、いろんな関係が生まれるので、それをいかにして未然に察知して防いでいくかという風な、これはオーストラリアに行ったときに、その辺の違いというか人と人との関係、在り方の違い、それをすごく感じました。オーストラリアに行ったときにビクトリア州の人口の在り方として、出身国が200カ国以上で様々な人種、価値観、宗教の方々が、宗教なんでもっと多く250いくつと言っていましたけども、本当にいろんな考えを持った方々が集まっている。それでもいじめの話になったんですが、「確かにあるけど」という話だったんですが、何かすごくドライなんです。今日、子ども達の話、先生方の議論を聞いていて、やっぱり何か違うんだなと思いました。それぞれ例えば一生懸命話している方、先生方が何人も各教室にいらっしやるんですけども、注意して聞いていると、総合的な議論として話している方が多かったのですが、中には自分の価値観を一生懸命訴えている方もいらして、教員というのはそういう先生方も多いのですが、果たして本当に正しいのかということを考えながらお話しされているのかなと思いました。こういう自己主張もあるのかということもあって、いじめの問題というのはそういうところにすごい関わってくるのかなということです。オーストラリア、メルボルンに行った時に、みんな考え方、宗教が違いますから、受け入れるためにまずは英語力をつけてもらおうと、そういうシステムが出来上がっているので行ったのです。お世話になった時に「東アジアの人達」と一括りに言われたり、東南アジアと言われたりするの「ああ、なるほどな。」と思いました。人と人の関わり方の中から、そういう大きな問題がやっぱりあるんだろうなという風なことを感じていました。それで夕べ、韓国の方々に伺って「やっぱり難しいな。この日本という国の中で、子ども達が育っていく上で、いじめの多さにどういう風に私たち

はこれからの施策を考えるか、本当にこの課題は難しいな」と感じました。ですので、今日のいじめ防止対策委員会は、いろいろ議論していただいて、少しでもスタートしていただきたいなと考えております。よろしくお願いいたします。

中坂補佐 続きますので、嶋崎委員長よりご挨拶いただきます。よろしくお願いいたします。

嶋崎委員長 本日は、素敵な企画をしていただいて、また子ども達は本当にいいですよ。柔軟な考えを持っていて、非常に素直で、いい雰囲気です。私自身、慰められたというか、自分の心を癒されたというか、そんな気持ちでございます。この種の取り組みは先端を行っていると思いますので、ぜひまたさらに進んでいければいいなと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。

中坂補佐 では協議に入りますので、進行を委員長にお渡しします。よろしくお願いいたします。

嶋崎委員長 時間でございますけれども、限られた時間でございます。短い時間で終わらせていただきますので、ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。まず、本日会場校として大変ご尽力いただきました、阿曾校長先生から学校のいじめ対策なども含めてお話いただければ有難いです。よろしくお願いいたします。

阿曾校長 それでは、失礼します。みなさん、こんにちは。六実中学校校長の阿曾でございます。日頃より大変お世話になっております。今日はこういう形でいじめ防止対策委員会を本校で開催していただきまして、本当にありがとうございます。感謝を申し上げます。私どもの六実地区はですね、本校の六実中学校と本日来ている三小学校、三小一中、これで六実地区という風に呼んでおります。三つの小学校からそっくり本校に入学してくるような状況でございます。小中がまとまりやすい地区、そして本校では現在592名の生徒が日々生活している状況でございます。いじめについて少し話をさせていただきますと、やはり現在の教育課題と言いますと、どうしてもいじめ、不登校という風に挙がってくるわけですが、私どもの学校に「井戸端会議」という地域の方々が学校についていろいろ協力してくださる会議がございます。まずはその方々に5月の段階で私の方からいじめについての情報を、昔と今は違いますので、お話をさせていただきました。また、生徒指導主任からは5月の段階で生徒全員にいじめについての話を集会の中で行い、そして保護者にもこの7月に生徒指導主任の方から、いじめの定義から認知件数について、一学期は93件認知をしたわけ

ではございますが、こういうようなことの話をしていただきました。そして今回職員に、もう今日でもってこのいじめについてはしっかりと見識をもってほしいということで、担当指導主事の方から、ランチルームで指導をいただいているところでございます。そういった形でいじめについて、本校ではこのように進んでいるところでございます。現場で592名の生徒を預かる校長としましては、やはりいじめる側、いじめられる側、加害者については最近いろいろ考えてみると、発達障害との関わりっていうのをすごく感じているところでもあります。つまり、どうやってあげるか、どう表現してあげるかというようなところは言葉を選んで、私が言うと言葉を選んでになってしまうのでしょうか、そういうようなところを教員が研修していく必要があるのかな、つまり総称としてはすべて生徒理解に繋がるのかなというようなところで、職員会議等では職員に話をしているところでございます。まだまだ未熟で勉強しなくてはならないことがたくさんあるわけでございますが、教員も20代から60代という広い範囲の中で子ども達に当たっています。ぜひ今日をいい機会として勉強させていただければという風に思います。ご指導の方よろしくお願いいたします。

嶋崎委員長

ありがとうございました。本日会議ということでもありますけども、皆様からまず今日のご感想を含めて何かさらにこれからの事に繋げるご意見などございましたら加えていただいて結構でございます。立林先生の方からよろしいですか。順番にいきます。

立林先生

小中学生と先生方のいじめ防止に向けたまじめな話し合いを見させていただいて非常に貴重な時間を過ごさせていただいたように思います。松戸市のいじめ防止について話し合う小・中学生や先生方の実際の姿を見て、非常に参考になりました。特に先生方の話し合いの中で見た小学校の学級担任制と中学校の教科担任制についての意見交換が印象に残っています。小学校の先生から中学校の生徒は教科担任制だから多くの先生がクラスの生徒に関わって、小学校の学級担任制では学級担任の責任が重く、指導がうまくいかないことが多くみられる。中学校の先生から逆に、小学校はクラスの児童と一緒にいられる時間が長いから指導がしやすいのではないかと。そういうような話がされていました。私も小学校、中学校を経験して、中学校の生徒指導と小学校の（生徒）指導には先生方の考え方には溝があるかなと感じました。今回の取組は、いじめ防止に向けた生徒指導に関し小・中学校の先生方の本気の繋がりを作る非常にいい機会だと思いました。以上です。

嶋崎委員長

はい、ありがとうございます。

高根先生

ありがとうございました。子ども達、本当に初めて顔を合わせてるんです

よね。大人もそうですよね。初めて出会った方とどれだけお話ができるか
なって思うんですけど、子ども達は初めて出会った他の学校の生徒と一緒に
いじめの問題を一生懸命話して、自分なりの言葉で一生懸命伝えようと
しているその姿、それがやはり一番大事なんだろうと思いました。ただ、
一つ思ったのは、あそこの中に特別支援学級の生徒さんはいらっしゃいま
したか。子ども達のいじめでは特別支援学級の子どもさんがどちらかとい
えば被害にあうことがありますよね。なので、言葉が出ないお子さんだと
しても、こういう会議と一緒に参加する、それがインクルーシブ教育だと思
うんですよね。子どもたち自身、きっとそういうお子さんがそのグル
ープにいたとしてもすぐに直感でいろんなことを感じて、合わせることは
できると思うんです。ですからそういう設定、場の設定というのもこれか
らしていく必要があるんじゃないかなと思いました。あと先生方の方もほ
んとに中学の先生は LINE や Twitter など、先生達に分かるいじめがなく
なってきましたよね。家に帰ってからスマホを使って、LINE 外しはもち
ろんの事、詐欺行為になるような犯罪に近いことまで子ども達は発す
る。そんな中で、どうやって気になるものを先生達を知るか、子ども達を
理解するためにはそういう情報がとても大事で、そのことを、一生懸命話
をされている姿を見て、私も本当にそうだなと思いました。昔だったら何
気ない仕草や行動ですとか、あるいはグループの中にさりげなく生徒指導
の先生が入って情報を掴んでくるというやり方で、ある程度私達大人の教
員に分かることだったんですけど、本当に今は学校ではすました表情でと
ても普通にしている生徒、ところが家に帰ったら深夜、グループでいろ
んな事をやって、教員、大人の話を話したりしてしまして、それも結局相
手に対するネガティブな気持ちを出したい、その関係の情報知識をこれか
らぜひ学ばせていただきたい、いろんな方々と交流し共有していくこと
で、子ども達のいじめを整理していきたいと思います。ある小学校の先生
は、どんな人でも、どんな考えを持っている人でもいいんだ、いろんな人、
いろんな子が教室にいてもいいんだっていう、人間を見る見方を、受け止
め方っていうのを小学校の内にぜひ養わせたいっておっしゃったんです
けど、本当に私もそうだなと思います。異質な文化、宗教の人とこれから
出会うと思うんですけど、そんな自分とは違う異質あるいは違和感さえ感
じる人ともある程度歩み寄って自分の考え、意見を上手く伝えながらいい
関係を築いていくことを子ども達が義務教育の間に身に付ける場があれ
ばいじめということも変わってくるのではないかと思いました。本当に真
剣に、真摯に取り組んでいる姿を拝見していて私自身が感動しました。あ
りがとうございました。

嶋崎委員長

ありがとうございます。

吉田弁護士

感想をちょっとだけ、感想でしかないんですけども、先生方のお話をう

かがって、それぞれ小学校であれば中学校は小学校では分からない悩み、そういう情報が上がってくるですとか、小学生だったらいじめというものを一番最初に捉えるかという先生方が現場で苦労されている話がありましたし、あるいは先生がおっしゃったように携帯には目に見えないものに対してどう対応すべきかということについても話をうかがって、やはりどうすればよいかと、情報を共有するとか、やはり小学校と中学校が、先生方が学校全体で何か情報を共有できるようなシステムがあれば、対応するだけの手段としてはあるのかなという感想です。

嶋崎委員長

ありがとうございました。

荒先生

今日のワークショップの参加メンバーはどういう子ども達に来ていて、グループ分けはどんな風になさったんだろうと思いながら、本当に子どもたちの力ってすごいなって感動しながら聞いていました。また、少し違った角度から意見を述べさせていただきますと、5月と今日の会議に伺って学校の内と外では随分見え方が違うということに驚いています。前回の自己紹介で私は人権擁護委員の他に松戸市の「おやこ de 広場」や「こども館」などで子育てコーディネーターをしているというお話をさせていただきました。「おやこ de 広場」というのは0～3歳の親子の集う場なのですが、最近小学生の保護者の方の相談が増えているんです。どうしてそうなるのかと言いますと、学校で担任の先生に話しにくい、あるいは話しても分かってもらえない相談をどうしたらよいのかということで「おやこ de 広場」で小学生や中学生のご相談を受けるようになってきました。子どもの人権相談はいじめとか不登校という相談が多いのですが、ここでの相談もそれに近いところのケースです。やはり敷居の低い、気軽に話せる場、相談できる場というのが学校の内外に必要なんじゃないかなと感じております。それで六実中学校のスクールソーシャルワーカーの方たちにはとっても期待しているのですが、先ほどのワークショップでお話を伺いましたら、私たちが現場で感じていることとソーシャルワーカーの方たちが感じていることが非常に近いということを改めて感じました。私のところには0, 3歳の他に0～18歳対象の「こども館」もあるのですが、そこには学校や家庭が居心地のいい場所ではないというお子さんも来ます。ストレスを抱えていたり、お腹が空いている子もいて、このような子たちを受け入れてくれる場や代弁者がいないのがとても気になっているところです。今日スクールソーシャルワーカーさんがお話しされている点、子どもを取り巻く環境の理解が、まさに同感で、このような情報交換や気軽に話ができる相談の場が必要であると感じました。

嶋崎委員長

そうですね。多少時間ではございますので、それぞれの協議の中で、補足等ございますでしょうか。いかがでしょうか。

ご参観になられた校長先生の方々の中でもしご意見ございましたら、ありがたいのですが、いかがですか。よろしいですか。
それでは、委員のみなさんは次回の方向性も含めて何か良い点がございましたら、意見をとりたいのですが、いかがでしょうか。

荒先生 今年度の前期の学校のいじめ件数とまた、新たなプログラムを今年から実施されたんですね。

嶋崎委員長 その辺りは事務局さんにお尋ねさせていただいてよろしいですかね。現在の状況などはどんなように出ていますかね。

事務局 今、6月までの件数になってしまうんですが、小学校でだいたい3000件ほどですね。中学校で600件ほどということで報告が上がっています。

嶋崎委員長 そうしましたら次回の会では前期のまとめぐらいは。

事務局 そうですね。はい。

嶋崎委員長 それから今もう一つ、新しいプログラムの実施というんですかね。進んでらっしゃるんですかという質問ですが、その辺りいかがでしょう。

事務局 まだ配って本当に2、3ヵ月という所で、5月に配ったものなので。ただ、市教委訪問等で回る中で、掲示物などに使っていたいた跡とか、どうですかということを使っているというお声は聞いているのですが、まだ短いので。

嶋崎委員長 その件も含めてまた、次回に報告ということによろしいですか。ではそうさせていただきます。他によろしいですか。よろしければ次回の流れというんですかね、方向性なんかも含めまして、もし何かございましたらということでこの協議会そのものはここで一遍閉じさせていただきます。一度お返しさせていただきます。

中坂補佐 協議の方ありがとうございました。次回なんですけども3学期、1、2月辺りですね。
また、あの日程のお伺いの方は連絡をさせていただきたいと思っております。内容につきましては事務局で相談して示していきたいと思っております。以上で第2回いじめ防止対策委員会の協議の方を閉じさせていただきます。どうもありがとうございました。